

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）

企画セッション討議内容の記録

セッション名：生物・活動多様性保全と都市・地域計画	
日付： 6月 5日（土）曜日，セッション時間： 17:45 ～ 18:45	
オーガナイザー名（所属）： 谷口 守（筑波大学）	
討 議 内 容	<p>（裏面に個別論文の講評を記述できる欄を設けております。必要に応じてお使いください。）</p> <p>計画分野において、「多様性」に関わる課題が増えているにもかかわらず、その内容に関する十分な議論がなされていないことを問題意識とし、環境課題に関わる「生物多様性」、都市の賑わいに関連する「都市活動多様性」など関連する幅広い課題を扱った。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 谷口守（筑波大）の発表では、一般に定義されている多様性指標で都市の賑わいを表現することの課題を、表参道や郊外ショッピングセンターの事例を引いて解説された。また生物多様性政策が人間の生物種に対する好き嫌いに左右され、特定生物種のための保全に偏る傾向があることが報告された。</li><li>2) 森田哲夫（群馬高専）の発表では、前橋市を対象に環境多様性に着目した生活の質の評価構造に関するモデル分析結果が提示された。若年層が相対的に自然環境に対する評価意識が高くないこと、水辺の緑地を一つの軸として地区の類型化が可能であることが示された。</li><li>3) 福本潤也（代理発表：大石史哉）（東北大）の発表では、生物多様性オフセットの全体像が過去の事例整理を通じて提示された。ノーネットロスを実現するためのプロセス、バンキング方式の適用事例について情報提供がなされた。</li><li>4) 宮下奈緒子（政策研究大学院大学）の発表では、東京都 23 区を対象に、各種産業の立地分布とその変化を詳細に検討した結果が報告された。特に分散化が期待された情報サービス業などはむしろ特定の地区に集中が見られることが示された。</li></ol> <p>討議においては、下記のような事項について意見交換（抜粋）がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・多様性評価が難しいこと、今後の検討が必要なことは共通理解。また、既存の効率性・公平性基準とはどう関連するのかということも検討必要。</li><li>・生物分類に比較し、都市活動自体の分類は必ずしも十分に確立されておらず、多様性計算に対応できる内容になっていないのではないか。</li><li>・地域にもともと備わっていた多様性にもどすのがよいのか（札幌では熊が出る自然が本来のもの）、人間に都合がよい多様性をどこまで認めるのか。</li><li>・カーボンオフセットは炭素のみをコントロールすればよいが、生物多様性は組み合わせである。他の場所にミチゲーションする場合、そのような生物多様性の組み合わせまで本当に再現できるのか。</li><li>・多様性自体は機能が複数あり、どの機能に対するオフセットか。オフセットは単なる打ち出の小づちになるのではないか。</li></ul>

